

子育ての未来を照らす

庄原市こども未来広場整備構想がまとまりました

保健医療課
医療予防係
☎0824-73-1155
児童福祉課
児童福祉係
☎0824-73-1192

この構想は、本市の小児医療および子育て支援施設の現状を踏まえ、さらなる「あんしん」が実感できる子育て環境を構築するための基本的な事項を整理したものです。

この構想に基づき、市は、小児科診療所と病児病後児保育施設を庄原市街地の中心部（庄原市こども未来広場）に整備します。

庄原市小児科診療所等の運営に関する基本協定調印式を行いました

市は2月10日、小児科医師である金丸博さんと、「こども未来広場」を整備するにあたり、小児科診療所と病児病後児保育施設の運営に関する基本協定を結びました。この調印式では、現在の金丸医師の勤務先である、三次市の市立三次中央病院の中西敏夫院長と、庄原赤十字病院の中島浩一郎院長の立ち会いの下、金丸医師と木山耕三市長が協定書に調印しました。この協定は、小児科診療所などの施設を整備してから20年間の施設運営を約束するもので、その後有効期間が満了する3カ月前までに申し出がない限り、1年ずつ更新していくこととなっています。

また、この日、庄原市の小児科診療所を維持するための活動をしている、「庄原の小児医療を考えるひだまりの会」の

八谷りこさん、森岡早苗さんの両代表も会場に訪れ、調印の様子を見守りました。同会は、平成21年に会を立ち上げてから、小児科医師の負担を減らすために、病気に関する正しい知識を学び、上手な受診の仕方など小児医療についての勉強会などに取り組んできました。今回も、こども未来広場の計画をぜひ実現してほしいと、市内の子育て世代の思いを伝えるため、署名を集め市に提出しました。

木山耕三市長は、「この話をいただいたとき、本市の現状と課題、そして未来を考えるとき、必ず実現しなければならぬと、迷うことなく決断をした。この日を迎えるまでには、両院長からの力添えと、本市での開業の意志を最後まで貫いた金丸医師の熱意、さらには「庄原の小児医療を考

えるひだまりの会」の皆さんによる要望書の提出や短期間の署名活動は大変力強い後押しとなった。この事業は、地域の宝である子どもたち、またこれから生まれてくる子どもたちに安心な環境を提供し、

子どもたちを見守り・育む保護者の皆さんを支援するため、大変意義深いもので、産科医療の再開に向けた大きな前進であると実感している」と思いを述べました。



庄原の小児医療を考えるひだまりの会の八谷さん、森岡さんから金丸医師へ花束が贈呈された



かなまる・ひろし
金丸 博 医師
・広島大学医学部医学科卒業
・庄原赤十字病院小児科部長など歴任
・現三次中央病院小児科医長

顔が見える関係を築き 庄原に良い医療・子育て環境を

私は現在、市立三次中央病院小児科に勤務していますが、庄原赤十字病院に勤務していた4年半の間、地域医療に関わり、いつかこの地域に恩返しをしたいという気持ちで勤務をしていました。県北での開業を志し、その経過で、庄原赤十字病院の前院長の中西敏夫先生と現院長の中島浩一郎先生に声を掛けていただき、庄原での開業の志を持つようになり、木山耕三市長から市としての地域医療、子育てに優しいまち、それらについての熱い思いを聞き、庄原市に開業すること

力をいただきながら、自分の責任ある行動で恩返しをしていきたいと思っています。

これから、医師、患者の立場だけではなく、それを取り巻く環境も含めて、その子に何が欲しいのか、その保護者に何が欲しいのか、医療・家族などいろいろな方面から患者に寄り添っていただける医療を目指したいと思っています。

顔の見える関係を築いていきます。そして皆さんと互いに協力して、良い医療・子育て環境を庄原につくり、一緒に子育てを楽しんでいきます。

庄原市の小児科診療を維持するために活動してきた人たちの声を聞きました



浅尾 綾さん

・ひだまり広場利用者(元育児サークル「バルーン」代表)

かかりつけの医師がいることは大変ありがたいことだと思っています。医師が交代されてもデータを見れば、その子の病歴などは分かるかもしれませんが、地域に定着した医師がいてくれたら、みんな心強いと思います。子どもによっては、ひどいアレルギーがあったりしますが、そういう子の保護者は、同じ医師に診ていただきたいという思いが強いと思います。

医師が本当に激務であることは感じています。いつ休まれているのだろうと思います。だから、ひだまりの会で小児医療の勉強をし、今ではこれぐらいなら様子を見ようという考え方もできるようになりました。

小児科医師不足と言われている中、私たちがもっと勉強しないといけないと思います。



森岡 早苗さん

・庄原の小児医療を考えるひだまりの会代表

私たちが「ひだまりの会」を立ち上げたきっかけは、「小児科医2人体制ができなくなるかもしれない」ということが懸念される中、当時の庄原赤十字病院小児科の医師と座談会をさせてもらったことです。会では、親の不安を軽くし、上手な受診ができるように子どもの病気について勉強してきました。今も変わらず2人体制を保ってもらっていますが、小児科の置かれる状況を伺ってからはぎりぎりの状態で働いておられるのだと感じています。また、他の市町に住む友人に「病児病後児保育がないのに、どうやって働いているの」と言われたこともあります。

医師を1人確保するということがとても大変なことだと思っています。そんな中、庄原市に小児科の医師が来てくださるのが本当にありがたいです。



八谷りこさん

・子育て推進委員
・庄原の小児医療を考えるひだまりの会代表

今回の署名活動をするなかで、子どもが病気の時、大変苦労している人がいることが分かりました。近くに小児科がない人は、具合が悪く大泣きする子をはるばる遠くの病院に連れていったり、病院に到着しても長時間待たなければならぬことがあったりと、大変な思いをされています。

話を聞いているいろいろな意見がありますが、中には子育てを終えた世代の人でも、「自分の娘が将来庄原に帰ってきて、出産できて、孫の面倒を自分が見ることができたらうれしい」と話をしていました。

庄原が少しでも子育てしやすいまちになればと思います。今回の小児科診療所や病児病後児保育施設整備は、その第一歩だと思っています。